

<<研究課題名>

外傷外科チーム発足に伴う当院の大量輸血プロトコル運用整備と臨床検査技師の臨床貢献

<研究の目的>

大量輸血を必要とする重症外傷患者さんに対しては、血液製剤を迅速かつ適切に供給することが重要です。

本研究では、当院において大量輸血を要した外傷患者さんを対象に、患者搬入から血液製剤の依頼（オーダー）および輸血開始までに要した時間などを後方視的に調査し、大量輸血プロトコル（Massive Transfusion Protocol：MTP）の運用体制整備前後における輸血対応の変化を明らかにすることを目的とします。

また、臨床検査技師が救急診療現場へ参入する体制の整備と、迅速な輸血開始との関連について検討します。

<研究の対象者>

2024 年 1 月 1 日から 2026 年 4 月 30 日までの間に外傷により当院救急外来へ搬送され、出血に対する治療として大量の輸血を受けた方を対象とします。

なお、本研究では、診療経過中に赤血球製剤（RBC）を合計 10 単位以上使用した方を研究対象とします。

<研究方法>

本研究は、電子カルテおよび既存の輸血関連データを用いて行う後ろ向き観察研究です。

対象となる患者さんについて、主に以下の情報を収集し、MTP 運用体制整備前後における輸血対応の変化について解析します。

- 年齢、性別等の患者背景
- 受傷機転
- 患者搬入日時
- 血液製剤の依頼（オーダー）日時
- 血液製剤の使用開始日時
- 使用した血液製剤の種類および使用量

- その他、輸血開始までの経過を評価するために必要な診療情報

本研究のために、新たな検査、治療、採血などを行うことはありません。

研究成果は、学会発表や学術論文等により公表する予定ですが、患者さん個人を特定できる情報が公表されることはありません。

<使用する情報>

本研究では、通常の診療の過程で既に得られている以下の情報を使用します。

- 電子カルテ情報
- 診療録
- 輸血関連データ

本研究のために新たに患者さんから情報や試料を取得することはありません。

<個人情報の取り扱い>

研究に使用する情報は、氏名、患者 ID など患者さんを直接特定できる情報を研究データから分離し、研究用の番号を付して管理します。

研究用の番号と患者さんに対応させるための情報は、研究責任者の管理のもと、適切な方法で厳重に保管し、研究に関係する者以外が閲覧できないよう管理します。

また、研究成果を学会や学術論文等で公表する場合にも、患者さん個人が特定される情報を公表することはありません。

本研究への参加・不参加によって、患者さんが今後の診療上の不利益を受けることはありません。

<研究への不参加の申し出（オプトアウト）>

ご自身の情報を本研究に使用することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先までお申し出ください。お申し出があった場合には、研究対象から除外し、研究に使用いたしません。

研究への参加を拒否された場合でも、今後の診療において不利益を受けることはありません。

<研究責任者・担当者>

責任者：呼吸器外科 副院長 福永 亮朗

担当者：医療技術部検査 臨床検査技師 田中 大貴

<問い合わせ先>

〒070-8530 旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 医療技術部検査 臨床検査技師 田中 大貴

TEL：0166-22-8111

FAX：0166-22-3360